

涼感 みやざき



特集

地球温暖化を防止するための企業の取り組み

活動レポート

「J-クレジット」ってなんだろう?～市民の立場からできること～

衣・食・住から考える温暖化防止

一歩いっぽ 推進員便り

藤丸 一郎さん (宮崎市)

貸出ツールを使って講座を開こう!

エコ用語辞典

地球温暖化を防止するための企業の取り組み

多くの企業が地球温暖化を防止するために様々な取り組みを行っていますが、今回特に新しい取り組みをされている株式会社宮崎竹田青果さん、霧島酒造株式会社さんにお話をお聞きしました。

株式会社宮崎竹田青果さんの取り組み —J-クレジット制度—

環境について取り組もうと思ったきっかけは、まずは会社の信頼を上げたいという思いからでした。昨今様々な所で産地偽装等が横行している中で、会社の信頼を上げていくことは大切です。環境対策に取り組んでいくことで、環境に関する活動を含めて竹田青果という企業があるということを広めていきたいと考えております。そして弊社の取り扱う安全な青果物を皆様に安心して食べていただきたいです。今回竹田青果では、フォークリフトをディーゼル式からCO₂を出さない電動式にすることで、J-クレジット認証を受けました。フォークリフトに関しては日本初だそうです。



▲ 電動フォークリフト

J-クレジット認証を受けてから、講演をさせていただく機会が多くなりました。こういった制度を通して、地域の方々から竹田青果は環境に配慮をして経営をしているということを知っていただければ、うちだけでなく竹田青果が関わっている様々なところにもいい方向に繋がっていくのではと思います。また、フォークリフトの電動化については様々な企業にも広めていきたいです。これからは、現在一番化石燃料を使用しているトラックの電動化に取り組んでいきたいと思っています。トラックのメーカーさんが電動トラックを発売することがあれば、入れ替えを考えています。また、消費者の方が商品を買うことで温暖化防止に協力できる、どんぐりポイント制度を取り入れたいと考えています。個人で取り組むのではなく周りを巻き込んで、様々な方と協力をしながら温暖化防止に取り組んでいきたいと思っています。みんなで取り組んでいかなければ、地球温暖化防止はできません。そして将来の子孫に綺麗な地球を渡すことはできません。皆様のご協力をお願いします。

株式会社宮崎竹田青果 専務取締役 恒益 祥様



霧島酒造株式会社さんの取り組み —焼酎粕バイオマス発電—

焼酎粕のリサイクルプラントは2006年に400トン/日の規模を建設、2011年に400トン/日の規模を増設しました。発生するバイオガスは2006年からは飼料製造工程の燃料として使用し、2011年からは隣接する本社増設工場のボイラー燃料として利用を始めました。それでもバイオガスが余っていることから、今回バイオガス発電機を導入しました。焼酎粕発生量が1日650t、芋くず発生量が1日10tあります。発生するバイオガス利用の優先順位は①本社増設工場ボイラー燃料、②乾燥工程燃料、③バイオガス発電と①、②で使っても余っているバイオガスで発電を行うため、時間帯によって発電に回せるバイオガス量が変動します。



▲芋くず



▲発電機

発電機はバイオガス量が変動しても対応できるタイプの発電機を選定しました。発電機はガスエンジンタイプでエンジンの駆動部に発電部が付いているものです。バイオガス変動量に対応できるように735kW×1台、585kW×2台と3台に分け、時間帯によって1台運転、2台運転、3台運転と使い分けています。また単体運転でも出力が50%まで対応可能(バイオガス量が少ない時でも出力を下げても運転できる)です。上述したように余っているバイオガスで発電するので、瞬時に余っているバイオガス量を把握し、発電機へその

情報を伝え、発電機の稼働制御を行うのが大変でした。バイオマス発電以外にも、植林活動などの森林保全活動や太陽光発電、廃棄物の分別・回収、リサイクル、省エネの取り組みなど環境については様々なことを行なっております。これからの展望ですが、芋焼酎製造は地域の農産物加工業ですから、地域で取れた大地の恵み(農産物)に感謝し、大事に扱う活動を今後も行ってきたいと思います。

霧島酒造株式会社 生産本部 グリーンエネルギー部 副部長 田原 秀隆様



▲焼酎粕リサイクルプラント一部



「J-クレジット」ってなんだろう?～市民の立場からできること～(9/27)

9/27(土)に第10期宮崎県地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修『J-クレジット』ってなんだろう?～市民の立場からできること～を開催しました。環境テクノス株式会社取締役 岩本 浩氏によるJ-クレジット制度についての講演から始まり、

続いて株式会社宮崎竹田青果専務取締役 恒益 祥氏からはフォークリフトの電動化によるJ-クレジット制度への認証を果たした自社の取り組みの事例発表がありました。そして、後半はカーボン・オフセットフォーラム(J-COF)の秋山 奈々子氏による市民の立場からできるカーボン・オフセットの取り組みについての講演と参加者同士でのワークショップが行われました。

受講者からは、「3者3様で違う視点からの講話が非常に勉強になりました。」「企業だけでなく国民全員が理解できる制度にまで昇華するべきだと感じました。」といった感想が寄せられました。



衣・食・住から考える温暖化防止(11/1)

また、11月1日(土)にみやざき県民協働支援センターで、消費生活アドバイザーの林 真実さんを講師に迎え、「衣・食・住から考える温暖化防止」と題して講座を行いました。日常生活のなかで、温暖化防止に取り組むにはどうすれば良いのか、今の自分にできることは何かを講座の中で探っていき、考えていきました。様々なライフスタイルの紹介や受講者が実際に生活の中で行なっている温暖化防止活動、意見交換の中からエコな暮らしをするための様々なヒントが登場しました。

受講者からは、「必要以上なものを買わないということは大切だと思った」「無理をしないエコを人に伝えていきたい」といったような感想が寄せられました。次回の講座も奮ってご参加ください。



一歩いっぽ 推進員だより

藤丸 一郎 さん(宮崎市)

『エコドライブでCO₂と交通事故の削減を!』

今年度から推進員になりました藤丸 一郎と申します。エコドライブ推進システム「エコサム」に出会い、地球温暖化防止活動推進センターの存在を知りました。そして、「エコサム」をより多くの人に知っていただきたいと思い、推進員になることを決意しました。主な活動としては県内の企業様を訪問し、エコドライブのメリットを伝え、「エコサム」の運用を提案しております。その中で、エコドライブ講習会を実施し、CO₂の削減に取り組んでいただいております。また、地球温暖化防止活動推進センターの取り組みで、エコサムを使用した「みやざきエコドライブ推進事業」を強力にバックアップし、無料モニターをしていただけるよう、各企業様に呼びかけております。自分自身も「エコサム」に出会って、運転が変わりました。私の愛車は古いワゴン車ですが、とにかく燃費が悪く1ℓあたり7～8kmしか走りませんでした。しかし、「エコサム」の運用により、1ℓ当たり10～12kmと約50%の燃費向上を体験してしまいました。私が使用している社用車もエコサムを設置して走っているので、エコドライブせざるをえません。更に「エコドライブをしています」と宣言しているステッカーを車の後部に貼って走行していますので、煽られることはありません。今や、エコドライブは市民権を得ようとしています。

推進員になってまだ半年なので、多くは経験しておりませんが、エコサムを体験した多くの方がエコドライブのメリットを深く理解し、システムの素晴らしさに感動している様は、推進員冥利につきます。エコドライブを実施しておられる方の事故のリスクと過失の割合は非常に低くなります。宮崎県内の交通事故発生件数(人口10万人あたり)はワースト3にランクインしております。「エコサム」を普及することで、CO₂の削減も目標ですが、宮崎県の事故も削減したいと考えております。



エコサムセット▶

貸出ツールを使って
講座を開こう!



宮崎県地球温暖化防止活動推進センターでは、推進員の皆さまをはじめ、自治体・団体に対して地球温暖化や対応策を学ぶための様々なツールの貸し出しを行っています。

学習会開催の際、開催先に持参し、参加者の皆さんと手に取ってお使いになることが可能です。

ツールは当センターで保管しておりますので、気になるツールがある場合は、当センターへお問い合わせください。

●今回の特集「STOP! 温暖化ゲーム」(NPO法人 環境文明21制作)



「STOP! 温暖化ゲーム」はすごろく形式のツールです。ゲームを楽しみながら、温暖化を防ぐためには一体何をしたらよいか、具体的な方法を知ることができます。

普通のすごろくであれば手持ちにあるのはすごろくのコマだけですが、この「STOP! 温暖化ゲーム」は、はじめにCO₂カードというものを渡されます。このCO₂カードは増やすのではなく、減らしていかなければいけません。サイコロを振り、止ったマス目の指示に従うことで、CO₂を減らすことができます。しかし中にはCO₂を増やしてしまうコマもあります。最終的にCO₂カードを減らすことができないと、ゴールに辿りつくことができません。一緒にゲームに参加している人たちと様々な駆け引きをしながら、ゴールにたどり着くまでにできるだけ多くのCO₂カードを減らしていきます。



▲ゲームの様子



▲CO₂カード



▲コマとゲーム盤

●● 学習会実施までの流れ ●●

「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望があれば、各地域の推進員に学習会の開催を依頼することが出来ます。皆さんも学習会を開催してみませんか?

1. 学習会の開催申込み

お電話にて申込みを受け付けております。実施予定日の1ヶ月前までにお電話ください。連絡先:0985-60-3911

2. センターから各推進員へ連絡・調整

センター担当者から各推進員へ連絡を取り、日程や内容について調整を行います。

3. 学習会受付確定・実施

学習会申込者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺って学習会を実施します。

エコ用語辞典

22 ゼロ・エミッション

エミッション＝排出。製造業などで排出される廃棄物やガスなどが無くなること。本来排出されていた廃棄物をほかの産業のエネルギーとして替えることにより、全体として廃棄物を出さないとする考え方。電気自動車などをゼロエミッションモビリティと呼ぶこともある。

23 ESD (Education for Sustainable Development)

持続可能な開発のための教育。環境、開発、人権、平和、国際など様々な分野の問題に総合的に取り組み、自ら考える力を付けることで問題解決能力を養う教育プログラム。義務教育の現場だけでなく、高校や教員教育、環境教育、社員教育など様々な場面で取り入れることを目標に、国連では2005年から2014年までを「持続可能な開発のための10年」と宣言。宮崎では昨年度より綾町と小林市の小中学校の一部でESD手法を取り入れた授業を行っている。

24 エコリース

再生可能エネルギー設備や低炭素な業務用設備機器をリースで導入する個人や企業に対して、環境省がリース料を補助する制度。リース料の総額3%~5%の補助となっており、太陽光や風力等、再生可能エネルギー発電設備から予熱型工業炉、発光ダイオード照明装置など、様々な設備が補助対象となっている。

25 クリーンディーゼル

環境に優しい新世代ディーゼル自動車。ディーゼル車は本来ガソリン車より燃焼効率が良く、CO₂発生も少ないが、粉塵などの発生により国や自治体に厳しく規制されイメージが悪化していたが、技術の革新により排ガス性能を向上させたクリーンディーゼルの開発が進み、第4のエコカーとして、日本でもクリーンディーゼルの新車発表が行われている。

宮崎県地球温暖化防止活動推進センター通信「涼感みやざき」

発行：宮崎県地球温暖化防止活動推進センター（運営：特定非営利活動法人 宮崎文化本舗） 編集：中原憂也

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざきNPOハウス101

TEL：0985-60-3911 FAX：0985-89-4979

URL：http://www.mc3a.org/

E-mail：mcccaoffice@mc3a.org